

平成28年度 学校評価 総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

○ 評価基準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

自 己 評 価		学校評価者評価	次年度への課題・改善策	
重点目標	評価指標と活動計画	総合評価	学校関係者の意見	
1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるような授業の工夫をする。	評価指標 1 他の教員の授業を1・2学期 各3人以上の授業を見学する。 教員(3人以上)の授業見学率90%を目指す。	評価指標による達成度 ※()内は昨年度 1 教員(3人以上)の授業見学率 [1学期 95.7% (84.9%)] [2学期 77.3% (79.5%)] 年間全体 86.1% (82.4%)	(評定) B (所見) 活動計画に関しては計画通りに実施できた。 評価指標については、全体的な数値は全て昨年度よりも向上し、授業への評価は達成できた。 「生徒を中心とした授業」の実践の定着が、生徒アンケートでの評価の向上にもつながってきていると考えられる。 今後も更にこの結果を学力の定着へとつなげるため、引き続き授業の工夫・改善を行う必要がある。	○ 生徒が興味を持ち積極的に取り組めるよう、より一層の授業の工夫・改善をお願いしたい。 ○ 授業参観シートを有効に活用する方法を検討する必要がある。 ○ 返却された参観シートを授業実践力向上に一層つなげる。 ○ 生徒自らが学び取ろうとする姿勢を育てる授業づくりのために、各教科での教科会を定期的に行う。
	2 生徒・教員による授業への評価 ① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年70%以上を目指す。	2① [1学年 73.3% (77.1%)] [2学年 81.0% (74.0%)] [3学年 77.5% (71.6%)] 生徒全体 77.0% (74.2%)		
	② 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「たいそう思う」と回答する教員の割合が75%以上を目指す。	② 「そう思う」28.0% (33.3%) 「たいそう思う」56.0% (50.0%) 教員全体 84.0% (83.3%)		
	活動計画 1 1・2学期に各一週間すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。 2 2学期末に生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。	活動計画の実施状況 1 6月7日～13日と11月15日～21日の各一週間を公開授業週間とし、すべての授業を公開。3人以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点・自分の授業で生かせる点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。 2 12月中旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。		
2 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	評価指標 1 基礎学力養成のため校内漢字テストを実施し、事前指導を充実させることで、年間平均85点以上の優秀者の割合を各学年20%以上を目指す。	評価指標による達成度 1 年間4回のテストにおける優秀者の割合 1年生 38.5% (29.2%) 2年生 57.8% (53.8%) 3年生 57.9% (41.8%)	(評定) B (所見) 活動計画の実施状況および評価指標の達成度については、概ね計画どおりに実施できた。特に漢字テストでは、経年変化(進級に際しての成長度)の向上が顕著で、努力が成果に結びついた。 放課後読書会で行ったビブリオ・バトルでは、互いに好きな本を語る場を設けたことで、学年を越えそれぞれの会話や質疑応答を行う経験ができた。 今後より主体的な進路決定に臨めるよう、体験的な学びの場を設定したり、情報量を増やしたりすることで、広い視野を持ちつつ、能動的に学ぶキャリア学習を重ねさせたい。	○ 1年生から自分の将来像を描けるような指導を期待する。 ○ 家庭での学習時間は大事だと思うが、時間の長短よりも学習方法を教えてあげてほしい。 ○ 引き続き国語・数学・英語の授業及びホームルーム活動で学び直し教材やテスト対策の事前指導を実施し、基礎学力の定着をめざす。 ○ 家庭学習調査を定期考査ごとに実施し、学習状況を確認するとともに家庭学習の定着につなげる。 ○ 新着図書を図書委員がSHRで紹介したり、クラスで図書のリクエストを募ったりすることで読書活動を啓発する。 ○ 4月の総合的な学習の時間に進路指導室の利用ガイダンスを実施し、場所や活用方法を周知する。 ○ 過去問題集の配架場所をわかりやすく表示する。
	2 国語・数学の基礎教科に関して学び直しを行い、各学年最上級の合格率を基礎編90% 標準編80% 挑戦編70%以上とする。	2 国語・挑戦編3年 1級合格88.0% 国語・標準編2年 4級合格87.3% 国語・基礎編1年 7級合格94.7% 数学・基礎編1年 7級合格84.0%		
	3 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	3 一人あたりの1日平均学習時間 1年生 2.0時間 (2.3時間) 2年生 1.6時間 (2.3時間) 3年生 2.6時間 (1.8時間)		
	4 学力向上を図るため読書活動を推進し、一人あたりの年間図書貸し出し数4冊以上を目指す。	4 一人あたりの年間貸出冊数 3.2冊 (4.4冊)		
	5 具体的に将来の目標を見定め、希望進路を実現するために、進路資料室の利用とオープンキャンパス・進路ガイダンス・職場体験等の参加を促し、全校生徒の20%以上の利用と参加を目指す。	5① 進路指導室を「よく」及び「ときどき」利用した者の割合 全校生徒の22.4% (23.3%) 1年生 4.0% (0.06%) 2年生 3.3% (13.0%) 3年生 56.8% (55.6%) ② オープンキャンパスや進路ガイダンス・職場体験などに参加した者の割合 全校生徒の41.9% 1人あたり0.9回 1年生 22.4% 1人あたり0.3回 2年生 38.3% " 0.9回 3年生 64.9% " 1.4回		
	活動計画 1① 実施日に向けて国語科を中心に事前対策を行い、再テストなどの事後指導を学校全体で継続して行う。 ② 各学年・クラスでも学習を奨励し、学年表彰をさらに設けることで漢字の習得を奨励する。 2 各学年の実態にあったレベルを選定し、授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、テスト範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。 3 考査期間を含む1週間の家庭学習調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。	活動計画の実施状況 1 ホームルーム活動や授業で全体で呼びかけるだけでなく、個人的な声かけも行った。また、資格や検定の重要性についてホームルーム活動や集会で指導した。 2 国語科と担当が協力して事前指導を実施した。また事後指導として、全学年同じ日に学習日を設けた。 3 家庭学習時間を記入させることで、生徒の学習状況を担任が把握できた。また面談の際に学習時間記入用紙をもとに話をし、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。		

	<p>4 毎月1回の「穴高読書の日」に新着図書・推薦本案内等の情報を発信するとともに、クラス読書会・放課後読書会を年間3回以上行うことで生徒が本に触れる機会を設ける。</p> <p>5 ホームルーム活動や総合的な学習の時間、個別面談の機会を利用し、資料室の活用方法や意義を知らせたり、オープンキャンパス・進路ガイダンス情報などを随時クラスで案内する。</p>	<p>4 クラス読書会を2回、校内読書会を1回、放課後読書会を2回実施した。図書委員による広報活動として『図書館だより』を9回発行し、新着図書の案内を積極的に行った。</p> <p>5 2年生の利用は減少したが、1・3年生の利用は増加した。スマートフォンの普及により、生徒が自ら情報を調べやすい中、受験報告書や過去の出題傾向を調べるための利用が目立った。</p> <p>また各学校や企業、業者から体験の勧誘が増えたことで、校外の進路情報に直接触れる機会が増え、進路を考える上で選択や思考の幅が広がった。</p>				
3-1	<p>基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻指導、頭髪・服装指導に重点を置く。また学校や社会のルールを守り、正しい行動がとれる生徒を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>1① 毎月行う頭髪・服装指導の遅刻再指導者数が1ヶ月平均5名以下を目指す。</p> <p>② 1年間を通した1日平均の遅刻者数が5名以下を目指す。</p> <p>③ 定期的・不定期的な校内巡視・校外巡視を行うことにより、問題行動の未然防止につなげ、特別指導を受ける生徒の減少を目指す。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>1① 頭髪の再指導者数（4月～1月） [1学年] 8名 [2年生] 34名 [3学年] 11名 合計 53名 1か月平均 5.3名(2.3%)</p> <p>② 全校生徒に対する遅刻者数の割合（4月～1月） 平成26年度 1.8%(1日平均4.3名) 平成27年度 1.3%(1日平均3.2名) 平成28年度 1.1%(1日平均2.3名)</p> <p>③ 校内巡視（4月～1月） 全職員による巡視 161日 生徒による巡視 校内 66日 校外 66日 (校外巡視は午前中授業の日を中心に実施)</p>	(評定) A	<p>○ 遅刻者が減少したことが評価できる。</p> <p>○ 引き続き、基本的な生活習慣及びいじめ防止に取り組んでほしい。</p> <p>○ 社会人・人として当たり前のことができるように教育していきたい。</p>	<p>○ 頭髪の再指導者数は年々減少してきたが、本年度は目標を達成することができなかった。これまでの指導を継続するとともに、頭髪指導の事前指導を増やし、終日正装を徹底する。</p> <p>○ 遅刻者数は、設定目標を達成できた。次年度さらに減少するよう、継続的な指導を実施する。特に9月・11月の遅刻者数が多いため、この時期の遅刻者を減少させるよう指導する。</p>
3-2	<p>「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめ等の防止に関する基本的な考えを統一し、未然防止に努める。</p>	<p>2 いじめ等の未然防止のためのホームルーム活動・職員研修会・学校行事等を10回以上実施する。</p>	<p>2 「学校生活に関するアンケート」 2回 ホームルーム活動 2回 職員研修 1回 部活動性集会 4回 生徒会によるいじめ未然防止のための啓発運動 10回 合計19回（4月～1月）</p>			
	<p>活動計画</p> <p>1① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気づいた生徒を指導する。</p> <p>② 1週間に2回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。</p> <p>③ 計画的・継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気づいた場合には随時巡視を強化する。</p> <p>2 いじめ等の防止のための年間計画に沿った活動を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1① 4月～1月までに毎月1回、合計9回実施した。学年別に全教員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。</p> <p>② 遅刻者数が減少したこともあり、遅刻の多かった者への指導は、学年ごとに行った。月末や学期末にまとめて指導できた。</p> <p>③ 校内巡視は、基本的に全教職員が毎日交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課となる日を中心に、JR六軒駅周辺、量販店周辺などを見て回った。</p> <p>2 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年間計画に沿った活動を実施した。</p>			<p>○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より半減した。引き続き、巡視による問題行動の未然防止に努める。</p> <p>○ いじめ等の未然防止のための活動は今後も計画的・継続的に実施する。</p>	
4-1	<p>清掃活動を推進する。</p>	<p>1 ひかひかコンテストを年2回実施する。</p>	<p>1 計画通り実施した。 1学期 6月7日～6月13日 2学期 11月7日～11月17日</p>	(評定) A	<p>○ 今後は、整理整頓についても取り組むべきである。</p>	
4-2	<p>月1回アースデー（環境を考える日）を設け、ゴミの分別やポイ捨ての禁止、節電・節水を呼びかける。</p>	<p>2① エコキャップの回収個数20,000個を上回る。</p> <p>② 電気・水道の使用量がそれぞれ170,000kw、3,000m³を超えない。</p>	<p>2① <エコキャップ個数> 4～1月の生徒一人あたりの個数95個 総数では21,051個</p> <p>24年度 25年度 26年度 27年度 個数 85.6 96.5 311 138 総数 21,495 23,148 70,000 31,340</p> <p>② <電気水道使用量> 電気：4～12月の電気使用123,192kw 昨年度4～12月 113,188kw 10,004kw 増 昨年度より8.8%増</p> <p>水道：4～11月の水道使用1,367m³ 昨年度4～11月 1,353m³ 14m³増 昨年度より1.0%増</p>	(所見) ひかひかコンテストの実施も定着し、生徒の中での美化意識も更に高まりつつある。 校内におけるエコキャップの回収個数は、昨年度より減少したが、地域からの回収については昨年に近い数となり、目標を達成できた。 多くの生徒が分別をきちんとできており、美化・エコ活動に対する意識の向上がうかがえる。 電気・水道使用量については、昨年より増加し	<p>○ 生活環境をよくすることにより、エコ生活への意識も高まり、よい取り組みができていく。</p> <p>○ 美化・エコの意識を学校だけでなく家庭に反映できればなおよい。</p>	<p>○ 節電・節水に関しては、教室移動の際の消灯や節水を意識できるよう今後も継続して電気・水道の使用量を生徒に知らせたりポスター掲示を行ったりして注意喚起を行う。</p> <p>○ 教室だけでなく、廊下や階段のゴミの処理と一層の意識の向上について美化委員を中心に呼びかけを行う。</p> <p>○ 校内で実践した防災に関する活動や内</p>

<p>4-3 防災に対する意識を高め、発災時に行動できる力と資質を養う。</p>	<p>3① 年間 10 回以上活動する。うち地域の方とつながる活動を 2 回以上実施する。</p> <p>② 年度初めと 2 学期末のアンケート結果から意識の変化を確認する。</p>	<p>3① 計画通り実施できた。美馬市の防災イベントにスタッフとして参加し、穴吹町内の自主防災会では生徒が美演をするなど、生徒の自信にもつながった。</p> <p>② 今年の活動を通して自分の意識や考え方が変わったという生徒が多く見られる。</p> <p>また、それぞれの活動の内容について「よくわかった」「たいしたしよかった」の割合が、全体の 70 %を占め、体験的・実習的な各活動を重点的に取り入れた効果が認められる。</p>	<p>たものの、目標を達成することができた。</p> <p>防災クラブでは、初年度の活動を引き継ぎ、積極的に取り組むことができた。</p>		<p>容を、地域や家庭に還元できるような活動を計画する。</p>
<p>5-1 生徒会活動、学校行事を通して、自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>5-2 部活動のより一層の活性化を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>1① 各部が校内外の場所を決定し、年間3回以上清掃活動を行う。</p> <p>② 華の丘祭などの学校行事における生徒の満足度 90 %以上を目指す。</p> <p>③ 生徒会役員があいさつ運動を毎週月・金曜日に実施する。</p> <p>2① 部活動の 12 月時点での入部率 65 %以上を目指す。</p> <p>② 部活動生集会を年間 4 回以上開催する。</p> <p>活動計画</p> <p>1① 生徒会、部活動を中心に、校内外の清掃活動を行い、環境美化活動に取り組む。</p> <p>② 華の丘祭が生徒にとって一大イベントであることを理解させ、積極的参加を促し、充実感・達成感が得られるために意識の高揚を図り、生徒会・各クラスのために自主的・主体的に企画、運営できるよう適切な指導を行う。</p> <p>③ 生徒会役員がリーダーとなって積極的にあいさつを行い、全校生徒があいさつを交わす習慣を身につけ、そこからコミュニケーション能力の伸長に取り組む。</p> <p>2① 部活動への積極的かつ継続的な参加を促す。</p> <p>② 部活動を通して、よき人間関係が築ける取り組みを工夫し、指導を行う。また、部活動生集会では、部での活動すべてが学校全体の活性化につながることを意識させ、学校全体の発展のために取り組む。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>1① 各部清掃場所を決定し、年間3回以上清掃活動を行った。</p> <p>② アンケートによると、華の丘祭における生徒満足度は 88.4 %であった。</p> <p>③ 毎週月・金曜日にあいさつ運動を実施できた。</p> <p>2① 12 月時点での入部率は 75.9 %であった。</p> <p>② 集会を 4、5、9、1 月の計 4 回実施できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1① 生徒会・部活動を中心に、日頃できない場所を清掃し校内美化活動に貢献した。</p> <p>② 生徒会役員を中心に夏休みの前から実施案を考え計画した。また華の丘祭実行委員を募集し、さらなる内容の充実と生徒の積極的な参加を促した。</p> <p>③ 生徒会役員によるあいさつ運動により、校内においても積極的にあいさつを交わすことができるようになった。</p> <p>2① 部活動生集会や全校集会などで、部活動への積極的かつ継続的な参加を促す声かけを行った。アンケートによると 75.3 %の生徒が部活動に意欲的に取り組めた。</p> <p>② 第 1 回部活動生集会では、部活動生の共通目標を掲げて、部活動生全員が所属感、連帯感をもてるように指導した。第 2 回では総本司に向けての結束や創作活動への意欲向上を促した。第 3・4 回では、1・2 年生の新チーム・新組織としての心構えを伝えた。アンケートによると、部活動生集会が運営や活動の役に立ったと感じる顧問は 68.2 %、生徒は 50.8 %であった。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>学校行事については、概ね満足できているというアンケート結果が出ている。一部の項目で昨年度より数値が低下したのもあったが、天候等の影響によると推測できる。</p> <p>部活動においては活動内容の充実や良い成績を残す部が増加しているが、全体的に部員数が減少している。部員数が増加し、良い成績を残す部が増えるような工夫が必要である。</p>	<p>○ 華の丘祭の生徒の満足度が高いことが評価できる。</p> <p>○ 華の丘祭はマンネリ化を防ぐためにも、何か新しい企画を考案してもいいのではないかと。</p> <p>○ 学校生活における諸活動は一般社会における縮図と考えられる。個々が目標を持って取り組める環境作りを期待する。</p> <p>○ 部活動の中で協働性等を教育して欲しい。部活動への取り組みが学校の活性化につながる。</p>	<p>○ 各部の清掃活動について、重点的に行う場所や時期を指定する。また、部活動生による校外清掃の機会を増やす。</p> <p>○ 生徒数が減少するなかで、学校行事や部活動をどのように改善していけるかが、生徒や保護者、教員にアンケートするなどをして広く意見を求め、生徒の満足度が向上するように工夫する。</p> <p>○ 部活動生集会をさらに活性化するために顧問や生徒の声も集会に取り入れて、各部の活動の連携を促す。</p> <p>○ 周辺の中学校と合同練習を行うなど、中学生が学校の部活動に参加できる機会を増やし、中学校に向けて部活動の PR を活性化させる。</p>

6 生徒の人権意識 の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	評価指標	評価指標による達成度	(評定)	○ 引き続き保護者にも啓発を行う必要がある。 ○ 人権意識の高揚は、なお一層の努力が必要である。	○ 人権問題解消に向けて、人権問題を自分の問題として、差別を克服するために自ら考え行動できる生徒を育てる取組を続けていく必要がある。そのため人権ホームルーム活動や校内人権の日において、より身近で具体的な事例を取り上げるとともに生徒が主体的に取り組むことのできるような支援を行っていく。 ○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するために、PTA総会などの機会をとらえ保護者への情報提供・協力依頼を積極的に行うとともに、生徒を通じた保護者への啓発を行う。 ○ 「Together」の紙面に人権問題についての生徒の意見や家庭で話題となるような記事の掲載を継続し、保護者の人権意識の高揚に努める。
	1 校内人権の日におけるクラスの取り組みに関するアンケートにおいて、「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答する割合が90%以上を目指す。	1 「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答した割合は93.1%であった。	B		
	2 12月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2 人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答した割合が69.0%であった。	(所見) 生徒の取組に関する評価指標は目標にほぼ達した。		
	3 12月に実施される人権問題意識調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「ややまじめに取り組んだ」と回答する割合が60%以上を目指す。	3 「まじめに取り組んだ」「ややまじめに取り組んだ」と回答した割合は67.4%であった。	人権委員の生徒は、校内人権の日の司会・進行や校内行事の運営に前向きに取り組むことができた。		
	4 年3回発行する人権啓発新聞「Together」に保護者向けの啓発記事を掲載し、保護者にも人権問題を考えてもらう機会をつくる。	4 「Together」に新たに人権ミニコーナーを設け、高齢者問題として認知症の人の関わり方について、障がい者問題としてパラリンピックに関する保護者向けの啓発記事を掲載した。	人権教育講演会・人権啓発展への保護者の参加数が少なく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ない状態が続いている。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1 月1回「人権の日」を設け、人権委員を中心として、身近な人権問題を中心とした人権問題学習を実施する。	1 人権委員が司会・進行を務め、計画通り実施できた。			
	2 年2回(4月・12月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。	2 計画通り実施できた。			
3 ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施する。	3 人権ホームルーム活動は各学年ともに年間5回、計画通り実施できた。5月18日には人権映画鑑賞会を実施し、『ペコロスの母に会いに行く』を通じて高齢者問題に対する理解を深めた。				
4 人権啓発新聞「Together」を家庭で読んでもらうことができるように、人権委員やヒューマンライツ部を中心とした広報活動を行う。	4 人権ホームルーム活動などの内容や感想を掲載し、家庭に送付した。 華の丘祭において人権啓発展を実施し、ヒューマンライツ部の活動報告や「穴高人権かるた」を展示した。				
